

平成29年6月26日

各位

ダイダン株式会社

再生医療の普及に向け 省スペース・短工期・低コストで導入が可能な
小規模な細胞培養加工空間
『スマートCPユニット』提供開始のお知らせ

ダイダン株式会社（本店：大阪市西区、代表取締役社長：北野晶平、証券コード：1980）は、再生医療分野の産業化推進に向けて、さまざまな取り組みを進めています。この度、株式会社カネカ（本社：大阪市北区、代表取締役社長：角倉 護、証券コード：4118）と連携し、容器密閉型（閉鎖型）自動細胞培養装置を備えた、再生医療向け小規模細胞培養加工空間『スマートCPユニット』の提供を開始しましたので、お知らせ致します。



小規模な自動細胞培養加工空間を実現する「スマートCPユニット」

[背景]

当社は、再生医療分野の普及と産業化に貢献するため、同分野での取り組みを推進しています。平成27年と28年の11月には、同分野の最前線でご活躍の方々を講師にお招きして再生医療セミナーを開催いたしました。

また平成29年4月には、神奈川県が川崎市殿町に整備を進めている再生・細胞医療の産業化に向けた拠点「ライフイノベーションセンター」内に、細胞培養加工施設（CPF）を備え、さまざまな企業とのオープンイノベーションを推進する研究開発拠点として、【セラボ殿町】^(※1)を開設いたしました。

^(※1) ダイダンの医療施設・製薬施設やCPFを構築した技術と実績を生かした次世代型のCPFを備えたオープンイノベーション施設。

「セラボ殿町」は CELL PROCESSING FACILITY & OPEN LAB からの造語です。

[スマートCPユニットについて]

この度開発した『スマートCPユニット』は、細胞培養加工に必要な高度清浄空間を構築するダイダンの気流制御ブースと、容器密閉型（閉鎖型）自動細胞培養装置のトップメーカーであるカネカの装置を組み合わせることでユニット化し、省スペース・短工期・低コストでの細胞培養加工環境の構築を可能としたものです。当社が推進するオープンイノベーションの一環として実現いたしました。

再生医療の研究や治療で必要となる細胞培養加工施設（CPF：Cell Processing Facility）は、一般的には細胞培養を行うための清浄空間に加えて、入退室時の更衣室やパスルームなどが必要であり、広いスペースと各部屋の差圧管理などが必要になります。多くの間仕切り工事や内装工事が必要となるため、CPF構築時のインシヤルコストと清浄度維持などのためのランニングコストが高額となることが課題となっています。

『スマートCPユニット』は、ダイダンの清浄空間構築技術を活かした「エアバリアブース^(※2)」内に、カネカ製の閉鎖型自動細胞培養装置（型番：P4CS）^(※3)と、これの運用に必要なバッグや薬液交換などの作業を行うための安全キャビネットを組み合わせることで省スペース型の細胞培養加工空間です。『スマートCPユニット』は、クリーンルームではない一般環境に設置が可能となり、標準的なCPFと比較して大幅な省スペース・短工期・低コスト化が可能となります。（スペース75%減、工期80%減、導入コスト90%減（当社試算による））。

再生医療の低コスト化・自動化・安全化を推進し、再生医療の普及に貢献できるものと考えております。

なお、この『スマートCPユニット』は、厚生労働省が定める「細胞培養加工施設の構造設備」基準および施行通知にも対応可能です。

^(※2) エアバリアブース

ダイダンが開発・販売する、気流で交差汚染を防止する半開放式のクリーンブース
URLアドレス：https://www.daidan.co.jp/tech/tech/regenerative_medicine/

(※3) 閉鎖型自動細胞培養装置 P4 CS

カネカが開発・販売する、閉鎖系自動細胞培養装置

URLアドレス : <http://www.kaneka-cell.com/>

[販売目標など]

スマートCPユニットは、主に美容・歯科などの再生医療を行うクリニックや病院へ販売の予定です（某大学病院に納入実績あり）。2017年度の売上目標は5台。

実機を、【セラボ殿町】に設置しており、現在、見学を受け中です。

ダイダンは、今後も再生医療の産業化と普及に貢献するため、オープンイノベーションを進め、幅広い視点からお客様に最適な環境をご提案してまいります。

【お問合せ先】ダイダン株式会社業務本部広報部 伊藤

〒102-8175 東京都千代田区富士見2-15-10

Tel.: 03-3261-8231 E-mail: itoshuichi@daidan.co.jp